

2009年1月29日(木)

大学図書館職員研修「ad! ライブラリー ～大学図書館効果的広報戦略～」

大学広報の“戦略化”と大学図書館

明治学院大学 広報室

室長 齊藤一誠

大学の動向をニュースとして社会に対し的確に伝え、研究・教育機関としての基本情報を積極的に開示する、ということが大学広報の基本機能である。しかし、他大学との“競合関係”の中で広報活動の“戦略化”を図る場合、新たな発想が必要になる。明治学院大学は“ブランディング活動”を軸に、“伝える広報”から“伝わる広報”を目指してきた。その目的は、あくまでも教育理念の浸透である。

大学図書館の活動は、大学にとって貴重な“知の胎動”である。これを大学広報がニュースとして発信するとき、それは大学そのものの知的な動向となる。社会がそれを認知し好感と共に驚嘆すれば、それは大学の評価をも高める。大学図書館が、大学を超えて社会との接点を持つとき、大学の広報活動は活気を帯びる。

大学の“知”の在りようは、社会・市民に対して上流にあるように思える。研究・教育という活動の位置づけはともかく、研究・教育の成果である大学“知”は、社会・市民によってより広範に用いられる必要があるのではないか。大学は“知”の供給という点ではホスト・コンピュータであるよりもサーバーであるべきだ。大学図書館は、その“知”を社会に対して開きまた互いに連携を深める活動によって、そのような大学“知”の在りようを変革し、また大学自体の変容を促す。これは大学広報にとって貴重な話題である。

I. 大学広報とその“戦略化” - 明治学院大学の事例 -

1. 大学の“ブランディング”
2. “ブランディング”による大学広報の“戦略化”
3. 大学広報の機能と目的

II. 大学広報における大学図書館 - 明治学院大学の事例 -

1. 『和英語林集成』デジタル・アーカイブス
2. 「シュルレアリスムと写真」(東京都写真美術館)
「堀田善衛展」(県立神奈川近代文学館)
3. 図書館総合展・学術情報オープンサミット 2008

III. 大学“知”の社会的所在と大学図書館の可能性

1. 「ホスト・コンピュータ」か「サーバー」か
2. 大学図書館の活動が大学“知”を社会に開く
3. 大学広報の“戦略化”と大学図書館